

区分34	専門分野 病理学的検査	授業科目名	病理検査学実習	単位数	2単位 (60時間)
開講時期	2年 前期	担当教員	秀島 克巳	担当教員の 実務経験	有 無
◆実務経験の内容 1981年12月臨床検査技師国家資格取得、1982年4月長崎大学歯学部附属病院(現長崎大学病院)より2010年6月末まで勤務、その間臨床化学検査、臨床生理機能検査、輸血検査、血液凝固検査、微生物検査、一般検査、病理組織検査(細胞診検査)に従事した。また、医学部学生ポリクリ指導、臨床検査技師臨地実習指導等も行った。その後、2010年7月より島根大学医学部助教、2012年1月島根大学医学部助教(学内講師)として2021年3月まで勤務。この間、病理組織学的研究(細胞診断学)を行ってきた。					
◆授業の目的・目標 ①病理組織学的検査の基礎的事項や最新知見を取り入れ内容や実際を理解する。 ②組織染色に必要な正常組織象を理解する。 ③病理組織学的検査での組織染色の重要性を理解する。 ④臨床検査技師として病理組織学的検査に必要な基礎的秘術を養う。 ⑤その他の免疫組織学的染色、術中迅速病理診断、電子顕微鏡、病理解剖、病理検査室の管理等における知識習得をする。					
◆授業の概要・授業方針 ①『病理検査学実習』に必要な基礎的組織象を理解する。 ②テキスト資料等を基に講義実習を行う。 ③実習は班単位で行い、お互いに援助できる体制をとる。 ④3年次の臨地実習・国家試験を十分意識した内容で行う。					
◆テキスト・参考資料等 最新臨床検査学講座(医歯薬出版株式会社)*病理学/病理検査学 染色法のすべて(医歯薬出版株式会社)			◆成績評価の方法 出席状況・レポート課題状況・定期試験		
授業計画					チェック欄
第1回	病理組織学的検査の意義と概要				
第2回	病理標本作成手順(・固定法・切り出し・脱脂法・脱灰法・包埋法・薄切法・凍結切片)				
第3回	病理標本作成手順(・固定法・切り出し・脱脂法・脱灰法・包埋法・薄切法・凍結切片)				
第4回	病理標本作成手順(・固定法・切り出し・脱脂法・脱灰法・包埋法・薄切法・凍結切片)				
第5回	・染色法(・目的・染色前と染色後の操作)・染色装置・染色法の選択				
第6回	・染色法(・目的・染色前と染色後の操作)・染色装置・染色法の選択				
第7回	一般染色(基本染色) hematoxylin-eosin 染色(パラフィン切片)				
第8回	一般染色(基本染色) パラフィン切片 術注迅速診断標本 hematoxylin-eosin 染色(凍結切片)				
第9回	特殊染色・結合組織染色(・膠原線維・弾性線維・細網線維)				
第10回	特殊染色・結合組織染色(・膠原線維・弾性線維・細網線維)				
第11回	特殊染色・多糖類染色(・PAS(過ヨウ素酸シッフ反応)・Alcian blue 染色)				
第12回	特殊染色・多糖類染色(・PAS(過ヨウ素酸シッフ反応)・グリコーゲン消化試験)				
第13回	特殊染色・多糖類染色(・mucicarmine 染色・toluidine blue 染色)				
第14回	特殊染色・多糖類染色(・mucicarmine 染色・toluidine blue 染色)				
第15回	腎糸球体基底膜の染色法(・Masson trichrome 染色)				
第16回	腎糸球体基底膜の染色法(・Masson trichrome 染色)				
第17回	腎糸球体基底膜の染色法(・azan-Mallory 染色)				
第18回	腎糸球体基底膜の染色法(・azan-Mallory 染色)				
第19回	アミロイド染色法(・Congo red 染色)				
第20回	アミロイド染色法(・Congo red 染色)				
第21回	脂質の染色法・核酸の染色法				
第22回	線維素の染色法(・PTAH 染色法 リンタングステン酸ヘマトキシリン染色)・組織中無機物質				
第23回	・組織中無機物質(・鉄検出法・カルシウム染色)・生体内色素染色法・内分泌細胞染色				
第24回	(・組織内病原体・神経組織・酵素組織化学・免疫組織化学・遺伝子)染色				
第25回	(・組織内病原体・神経組織・酵素組織化学・免疫組織化学・遺伝子)染色				
第26回	(・組織内病原体・神経組織・酵素組織化学・免疫組織化学・遺伝子)染色				
第27回	(・組織内病原体・神経組織・酵素組織化学・免疫組織化学・遺伝子)染色				
第28回	・電子顕微鏡標本作製法・病理解剖・検査業務の管理				
第29回	・電子顕微鏡標本作製法・病理解剖・検査業務の管理				
第30回	まとめ				